

CSVサーベイランスネットワーク 第2回セッション

2012年7月30日 新宿パークタワー・カンファレンスルーム



《サマリー》

【CSV研究セッション】最先端技術とCSV
CSVサーベイランスネットワーク顧問

妹尾 堅一郎

技術だけでは勝てない。発想を変え、産業生態系 を作らなければ、イノベーションは起こせない。

■「技術で勝てる日本が、なぜ事業で負けるのか」は、私が3年前に著した本で、現状“残念ながら”予想があたり、むしろ事態は悪化しているように思う。

■ものづくりに3つの種類があり、1つは伝統工芸品、1つはガジェットのような受注生産品。いずれも重要であるし、価値あるものではあるが、日本の経済力という意味において大きなインパクトを持つのは3つめの「製造業」で、ここが壊滅状態にある。

■オデオ・ビジュアルなどの“黒物家電”を牽引していたソニー、パナソニック、シャープが大きな赤字を計上しているのを筆頭に、自動車、機械、化学、医療・医薬、情報通信などが、グローバルな競争の中で、苦しい戦いを強いられている。これらは、産業モデルがほとんど80年代を前提に作られていて、本当の意味での新製品、新サービス、新ビジネスが作り出されていない。

■日本の技術力は世界的にも依然高いが、産業競争力が急激に低下している。「科学技術大国」ではあるが「科学技術立国」ではない。

■パソコン市場では、従来の垂直統合、すり合わせで作られていたものを、Intelがハードとソフトを分け、MPUを中心にプラットフォームを作って、インターフェースのAPIを標準化し、組み立て型のビジネスに変えた瞬間から負けた。

■日本は同じように負け続けている。それは特許を出して、技術を monopoli にしてしまい、中国や韓国や台湾などに「技術供与」してしまっているから。Intelやマイクロソフトは、肝心なところを加えて収益源を確保するようなビジネスをしている。

■「技術が高ければ勝てる」という発想は通用しない。これからはグローバルな競争環境を前提に考え、技術だけではなく、ビジネスモデルで戦う必要がある。

■そのためには従来型の産業生態系を前提に技術起点型のイノベーションモデルではなく、まずどのような価値をイメージするかという広い意味でのデザインを起点としてイノベーションが必要。

■米海軍のアップル社の元請企業がIBMなのは、それが情報端末であり、重要なのはその後でデータを解析するシステムであるということ意味している。

■価値観が大きく変わり、産業生態系が大きく変わっている。発想を変え、自らが産業生態系を作るぐらいの考え方で取り組まなければ、イノベーションは起こせないのである。

【CSVテーマセッション】いきがいとQOLビジネス
NPO法人キッズデザイン協議会 専務理事

小野 博嗣様

キッズデザインはエバーグリーンデザイン。子供目線を入れる ことで、公益と事業益の両立への糸口になる。

■キッズデザインとは、次世代を担う子供たちの健やかな成長・発達につながる社会環境を創出するために、デザインの力を役立てようという考え方で、「子供たちの安全・安心に貢献するデザイン」「子供たちの創造性と未来を拓くデザイン」「子供たちを生み育てやすいデザイン」の3つのががかりで構成されている。

■キッズデザインの事例の中には、子供たちを対象としない製品に、子供目線を加えることで、製品自体により高い商品価値を生んでいるものが多数存在する。

■例えば三菱電機の蒸気レスIH炊飯ジャーは、蒸気レスにすることで、子供のやけどを防止する商品だが、それ以外にも家具のダメージを解消したり、収納したまま利用できる、美味しく炊けるといった商品価値の向上が実現できている。

■キッズデザインはエバーグリーンデザインであり、子供への配慮、子供目線を入れることがより高い付加価値に結びつくものと考えている。

■キッズデザイン協議会では、子供に関する調査研究活動を続けており、豊富なデータを蓄積している。子供の事故データは、病院との連携によって現在では1万件を超えているし、子供の身体特性に関する測定データや子供の発達特性や行動特性に関するデータも豊富に蓄積されており、これらを活用することで、子供の重篤な事故を未然に防ぐ工夫を見出して行きたい。

■キッズデザインの対象は、子供向けの製品・サービスだけではなく、子供が触れたり、遊んだりしてしまう可能性のある、ありとあらゆるものが対象。より広範な業種、業態の企業にキッズデザインのコンセプトを理解してもらい、会員企業を増やして行きたい。

■現在、キッズデザインのガイドラインを策定しておりISO化も視野に入れている。まずは産業界に広く受け入れられる基盤を整備し、次いで、中国や韓国への展開も進めて行きたいと考えている。



【Group work session】グループワークセッション

妹尾顧問、小野様のプレゼンを受け、「いきがいとQOLビジネス」をテーマとして、グループワークセッションを行いました。短時間のグループワークでしたが、多くの視点が共有されました。



【Discussion Points】 CSVサーベイランスネットワーク
座長 赤池 学

■語られてこなかったり、可視化されていなかったような情報やコンテンツこそ価値があって、これからのものづくりはデザインから始まるというのは、その辺りのことを指すのかも知れません。エビデンスなどにとらわれてしまうR&Dの担当者や研究者や有識者からは、なかなかその部分が見えてこないのではないかと思います。

■語られない、可視化されない、そしてそもそもわからないと捨てられてきたような情報の集積、戦略的な新しいCSV時代の情報集積と、企業が本来持っているミッションとの接点の中で一体何ができるのかということを探っていくのが、CSVの具体的な活動実践をパーセプトしていくときの1つのやり方なのかなということを、皆さんのプレゼンテーションから感じました。